

## 2013 年度事業報告

### I 総括 <公益法人としての新しいスタート>

JIA は、2013 年 3 月に内閣総理大臣から公益社団法人への移行認定書が交付され、同年 4 月 1 日付けで移行登記を完了しました。

公益社団法人としての新しいスタートにあたり、2013 年度事業計画の重点施策の冒頭に掲げた「地域に根ざした社会貢献活動展開」の強化に向けた組織体制の見直しに取り組みました。公益活動の主体を支部・地域会へシフトさせることを目的とした委員会体制等の再編に加え、全国の支部・地域会の公益活動の情報共有や支援がスムーズに行えるよう、活動分野ごとに全国会議を設置することを決定しました。

具体的な公益活動については、被災地の復興支援や被災地建築物の文化遺産としての保存活動、消費者に対する建築相談、まちづくりや環境問題への対応等を積極化するとともに、公益活動の拡大のため主要な表彰事業の対象者を会員以外にも広げました。

また、新法人への移行と同時に、正会員、準会員、および協力会員の三者で構成する新しい会員制度をスタートさせました。なお、建築家資格制度については、会員勢力の増強をめざすとともに、JIA 正会員を登録建築家へと導くための方策等を検討しました。

その他の重要な活動としては、国や自治体に向けた発注・設計契約等の業務環境の健全化に向けた活動とともに、建築関連三団体の連携による建築士法改正に向けた提案書の作成、建築基準法改正への協力をはじめ法制度の整備に積極的に取り組みました。また、国際活動展開としては、支部による海外交流の活性化促進と同時に、関連団体と連携して海外との若手人材の交換プログラムを実現しました。

そして、社会に開かれた JIA をめざして、一般市民に対する JIA の広報活動の強化、建築家大会 2013 北海道への市民参加促進のほか、市民および会員が参加・交流する建築物やまちなみの見学会、シンポジウム・講習会等を数多く実施しました。

2013 年度の分野別の主な事業活動は以下の通りです(詳細については、各支部、各委員会別の事業活動報告参照)。

#### [2013 年度分野別の主な事業活動]

##### 1. 建築環境整備事業

###### 1) 環境保全活動

環境・エネルギー問題の深刻化に対して、建築物や都市の環境問題やエネルギーの削減方策をテーマに、「2020 年省エネ基準適合義務化と JIA 建築家」「関西建築保存サミット」「米子建築塾・まちトーク」等のシンポジウムや市民講習会の開催、環境教育への支援、環

境関連図書の出版、行政への提言や関係官庁からの調査研究受託事業等を実施しました。

## 2) まちづくり活動

自然・歴史・文化・地域社会・安全などに配慮した、優れた街づくりをめざして、「近江建築塾」の開催、「街づくり担い手事業」への協力をはじめとする市民活動や行政への支援のほか、「日本版 CABE」に関する調査研究や他団体との連携によるまちづくりに関する調査研究を実施しました。

## 3) 災害対策活動

震災被災地復興に関する地域に密着した支援のため、「みやぎボイス;震災復興シンポジウム 2013」等の開催、大船渡地区や北上地区はじめ被災地の復興支援に関する調査業務を実施しました。また、首都圏直下型地震や東南海地震等の今後想定される災害への対策を検討するとともに、他の関連団体と幅広く連携した災害支援のネットワークづくりをめざし、「一般社団法人災害総合支援機構」の設立を支援しました。

## 4) 建築相談活動

建築・増築・リフォームの相談、欠陥住宅問題等トラブルへの対応をはじめ、一般消費者からの依頼に応じて、支部・地域会に設置している建築相談室が住まいに関するきめ細かな建築相談活動を実施しました。また、震災被災地における支援活動として「地域型復興住宅相談会」を開催しました。

## 2. 建築文化育成・交流事業

### 1) 表彰活動

「日本建築大賞」「日本建築家協会賞」「新人賞」「25年賞」「環境建築賞」を主催し、受賞作品の日本建築家協会優秀建築選(JIA 建築年鑑)への収録・出版を行いました。また、「学生卒業設計コンクール」「建築家のあかりコンペ」等の特色ある表彰事業に加え、支部、地域会等による地域の特色を活かした表彰事業を実施しました。

### 2) 交流活動

広く一般市民に対して、建築文化の普及・振興を図ることを目的として、支部、地域会が主体となって、建築物やまちなみの見学会、建築文化に関するシンポジウム、講習会、建築作品の展示会、建築文化関連図書の出版等を実施しました。

### 3) 国際協力活動

世界建築家連盟(UIA)やアジア建築家評議会(ARCASIA)、各国関係団体との本部による交流に加え、「中国建築交流」「日韓中・若手建築家ワークショップ」「建築大展・国際コンペ(釜山)」「韓国の光州広域市との交流事業」等の支部による海外交流の活性化促進と同時に、国際建築活動支援フォーラムを関連団体とともに支援して海外との若手人材の交換プログラムを実現しました。

### 4) 教育・育成活動

建築をめざす大学生・大学院生対象の「オープンスクール」、大学院インターンシップへの支援、学生向けの短期実習を行う「オープンデスク」といった教育・育成支援制度の運営、子供を対象とした建築・まちづくり教育のための講習会等を実施しました。

### 3. 建築制度整備事業

#### 1) 継続職能研修(CPD)制度運営

建築家の社会的責務を果たすために必要な継続能力開発のために、CPDプログラムの認定(2013年度:認定したプログラム総数 788 件)、CPD 取得状況の管理、他団体との連携業務をはじめ、CPD 制度の運営を実施しました。

#### 2) 建築家資格制度運営

建築家のモデル資格として推進している建築家資格制度に関して、「登録建築家」の認定業務、制度の普及のための活動等を実施しました。資格制度の充実のために JIA 正会員全員を登録建築家へと導くための建築家資格制度のあり方等を検討しました。

#### 3) 建築関連の法・制度の調査研究・提言

日本建築士事務所協会連合会、日本建築士会連合会との連携による「建築士法改正」に向けた提案書の作成、「建築基準法改正」に関する国土交通省への協力といった法・制度の整備への取り組みをはじめ、国土交通省大臣官房官庁営繕部等に対する設計業務発注に関する意見表明、仕様書・契約書や建築家賠償責任保険に関する調査研究等を実施しました。

## II 2013 年度通常総会

2013 年度通常総会を 6 月 28 日午後 2 時 30 分より 4 時 05 分まで、東京 建築家会館 1 階大ホールにて開催しました。正会員数 4,340 名の内、書面表決者 1,648 名、委任状提出者 758 名を含む出席者総数 2,505 名により総会が成立し、議長に小田義彦会員、副議長に森暢郎会員を選出した後、下記議案が審議され、いずれも原案通りに承認されました。

### [2013 年度総会議案]

- 第 1 号議案 2012 年度貸借対照表及び損益計算書、財産目録の承認の件
- 第 2 号議案 理事及び監事の選任の件
- 第 3 号議案 準会員・協力会員の入会金及び会費の件
- 第 4 号議案 地域会設置の件
- 第 5 号議案 名誉会員選任の件

## III 2013 年度理事会

2013 年度理事会を、臨時理事会 1 回を加えて合計 8 回開催しました。各理事会の議事は以下の通りです。なお、2013 年度は理事会のほかに、意見交換の場として理事懇談会を 7 回開催しました。

**[2013 年度理事会議事]**

**1) 第 211 回理事会(5 月 7 日開催)**

- ①入退会・資格喪失者について
- ②新会員制度の運用に関する退会等の取り扱いについて
- ③会長専権による後援名義承認について
- ④支部規程・地域会規程の一部改定について
- ⑤職責委員会報告による対応について

**2) 第 212 回理事会(6 月 6 日開催)**

- ①入退会者について
- ②2013 年度通常総会議案について
- ③委員会体制再編について
- ④支部規程・地域会規程の一部改定について

**3) 第 213 回理事会(6 月 28 日開催)**

- ①入退会者について
- ②総会白紙委任状等の取扱いについて

**4) 臨時理事会(6 月 28 日開催)**

- ①専務理事及び支部長選任について

**5) 第 214 回理事会(8 月 22 日開催)**

- ①委員会再編について
- ②懲戒審査について
- ③準会員・協力会員入会申込書式について
- ④「会員の入退会の審査その他会員に関する事項を処理するため」の内規について
- ⑤民間(旧四会)連合協定工事請負契約約款委員会による小規模建築物・設計施工一括  
用施工等契約約款・同契約書式作成への対応について
- ⑥本部、関東甲信越支部事務局の担当変更について

**6) 第 215 回理事会(10 月 17 日開催)**

- ①入退会者について
- ②役員選挙規程改定について
- ③委員会の委員承認について
- ④メルマガの配信について

**7) 第 216 回理事会(12 月 19 日開催)**

- ①入退会者について
- ②委員会の委員承認について
- ③委員会改廃について
- ④委員会規定改正について

#### 8) 第 217 回理事会(3 月 20 日開催)

- ①入退会者について
- ②委員会の委員承認について
- ③規定改正について
- ④2014 年度事業計画及び予算について
- ⑤支部運営費の配分方法について

### IV 資格制度認定評議会等

#### 1. 本部資格制度認定評議会

2013 年度本部建築家認定評議会を 2014 年 3 月 27 日に開催しました。議事は以下の通りです。

##### [2013 年度本部建築家認定評議会の議事]

- 1) 建築家資格制度について
- 2) 認定、更新、再登録について
  - ・新規認定審査 申請者 22 名 合格 22 名
  - ・登録更新審査 申請者 471 名 更新 456 名 保留 15 名
  - ・再登録審査 申請者 6 名 再登録 6 名
- 3) 支部建築家認定評議会評議員の選考について

#### 2. 建築家資格制度委員会

上記本部建築家認定評議会を補佐して建築家資格制度の運営をするために設置された建築家資格制度委員会は、2013 年度の登録建築家の認定・更新・再登録について、各支部建築家認定評議会から提出された報告書の取りまとめ等、本部建築家認定評議会の審査に向けた準備を行いました。

なお、委員会再編にともない、職能と資格制度に関する基本的な課題とその方策に関する調査研究は、本委員会とは別に、後述の「職能・資格制度委員会」で行うことになりました。

## V 本部役員選挙

11月15日発行の「JIA MAGAZINE 298号」で2014年度本部役員選挙告示を行い、役員候補が確定し、12月20日に第2回告示を行いました。

[2014年度役員候補(2014年度総会にて役員就任を審議する予定)]

	氏名		所属支部
【理事】			
	芦原 太郎	(再任)	関東甲信越支部
	上遠野 克	(再任)	北海道支部
	辺見 美津男		東北支部
	上浪 寛	(再任)	関東甲信越支部
	千葉 学		関東甲信越支部
	森 暢郎	(再任)	関東甲信越支部
	岩村 和夫	(再任)	関東甲信越支部
	石田 壽		東海支部
	鳥居 久保	(再任)	東海支部
	松本 敏夫	(再任)	近畿支部
	吉田 文男		近畿支部
	龜谷 清		中国支部
	野村 正人		四国支部
	角銅 剛太		九州支部
【監事】			
	山本 光良		近畿支部

## VI 委員会活動

2013年度活動方針にもとづき、地域密着の公益活動の充実を図るために、支部・地域会に活動主体を移すこととし、本部をスリム化するための委員会の再編を行った。なお、地域での公益活動相互の連携・支援を強めるために、活動分野別に全国会議の設置を計画している。

### 1. 再編後の新委員会活動

#### 1) 職能・資格制度委員会

新委員会体制により、職能定着のための戦略づくりと会員の質と行動を保証する公益保護活動推進をミッションとして設置されました。「JIA 正会員は全員登録建築家であることを目指す」芦原会長の方針を実現するための諸問題について協議を進めています。また、この一環として、JIA 建築家大会 2013 北海道で「建築家資格制度の目指すところⅡ」シンポジウムを開催しました。

#### <ワーキンググループ活動>

##### ・CPD 評議会

2013 年度の本評議会の活動は、毎月約 60 件に及ぶプログラム登録申請審査を主に行いました。近年、プロポーザルによる設計者選定に CPD 実績を取り入れる地方自治体等が増加しているため、会員の CPD に関する関心も高くなっています。

#### 2) 公益事業委員会

JIA の行う公益事業の推進役として、公益事業委員会が 2013 年度から活動を開始しました。JIA 会員と JIA 各組織の行う活動が公益性を担保できるよう、会員や事業主体の組織に対して提言を行い、事業活動のガイドフレームを提示するとともに、社会に対して JIA の公益寄与をアピールすることに役立つ施策を提案することを検討しています。

2013 年度には、本部・支部・地域会全体の事業活動リストの収集を行い、全国で 700 を超える事業の膨大なデータが集められました。2014 年度にはそれらを整理し、参照しやすい形で会員に提供したいと考えています。

#### 3) 業務改善委員会

業務改善委員会は、委員会再編にともない業務・職能委員会と設計環境改革委員会が統合された委員会です。その活動領域は、①設計業務に関する法・制度、②業務改善のための国・他団体等との連携推進、③マーケティングや事務所経営マネジメント、と多岐に亘っています。発足初年度の委員会では、3つの活動領域における調査・研究の課題抽出、建築界動向の意見交換を行いました。また、活動②に関連して、公共建築設計懇談会、設計三会、法令四会においても JIA の存在感を高めました。

ワーキンググループ(WG)については、既設の3WG(建賠、約款、IP)をそのまま引き継ぐ一方で、設計者選定、デザインビルド検討、設計事務所法検討の3WGを再編して新たに発注方式 WG を設けました。さらに、活動③も視野に入れて次世代建築生産システムを研究する WG も設置しましたが、本格的な活動は新年度から始まります。

## <ワーキンググループ活動>

### ・建賠 WG

2013年4月より、滅失もしくは損傷が発生していない場合でも、設計等の業務ミスで、建築基準法および建築基準法関係法令に定める基準を満たさない場合に、法律上賠償しなければならない損害を補填するオプションを創設しました。また、工作物に対する補償範囲も条件付きながら拡大しました。

### ・約款 WG

主に現行「工事請負契約約款」の改定、「小規模模建築物・設計施工一括用工事請負契約約款」制定、「リフォーム工事請負契約約款」の制定及び「小規模建築設計・監理業務委託契約約款」の制定にあたって、約款 WGとして意見・要望等を集約し、「民間(旧四会)連合協定/工事請負契約約款委員会」及び「四会連合協定/建築設計・監理等業務委託契約約款調査研究会」に提出して協議を行いました。

### ・IP- WG

IPD-WGは、2012年にJIA-BIMガイドラインを発表後、JIA 横浜大会、登録建築家講習会等でその概要説明を行ってきました。2013年度も9月に講習会を実施し、11月には台湾科学技術協会の招聘で同国内務省建築研究所とBIMについて協議しました。また、9月から国土交通省BIMガイドラインについて、日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会と共に意見交換会に出席し、この意見交換により、シミュレーションは設計の標準外業務であると明記されたことは大きな成果と考えています。

### ・発注方式 WG

五輪施設の建設にデザインビルド(DB)が採用されるというニュースが出る等、今後行政機関ではDB含めさらに多様な発注方式を選択していく傾向が高まると考えられます。当WGは2013年12月より活動開始し、以来5回開催して、東京都、横浜市等の発注方式について情報を入手しました。発注方式についてのJIAの考え方を示すリーフレットを作成するため内容を検討中です。

## 4)財務・事業管理委員会

委員会(WEB)を2013年10月21日から2014年3月13日まで5回開催し、JIAの財務管理、事業管理を充実・強化するため、下記のような業務を行いました。

- ①支部・地域会に対し、「事業管理連絡票」の作成依頼、2013年度予算の執行状況の把握と事業の公益性確認と公益化への助言を行い、また、2014年度事業についても、事業の公益性確認と公益化への助言を実施。
- ②支部・地域会の2013年度四半期決算報告と2014年度予算案の作成依頼と、本部・支部・地域会を含む合算表により、JIA全体の公益事業比率の2013年度の確認と2014年度の予測を実施。
- ③「国際交流基金積立資産管理規程」を確認、及び「国際交流基金積立資産運用規約」の作成と「規約」を理事会へ上程し、国際交流基金の運用方法を協議、承認。



- ④新・新会計による 2013 年度決算を確認し、2014 年度予算案作成のための前提確認と本部事業についての予算査定を実施。
- ⑤支部運営費配分方法を再検討し、配分案を理事会へ上程。
- ⑥内閣府への提出書類(2014 年 3 月 31 日オンライン送付)を確認。

## 5)総務委員会

新委員会として、理事会からの付託事項への対応、諸規定類の運用状況の管理、事務局の業務執行状況の管理、緊急時対応を主要ミッションとして8月からスタートしました。旧規定類の見直しを行い、「役員選挙規程」「委員会規程」「懲戒規程」「懲戒規程運用細則」「会員への苦情に対する組織とその運営に関する規程」「顧問選定規程」「本部賛助会員規則」「旅費規程」「本部慶弔見舞金規程」の改正案を検討し、理事会に答申しました。

## 6)広報委員会

JIAの重要課題として、「対社会への発信とJIA内部の情報伝達推進」を掲げ、下記の活動をはじめ、内・外への情報発信の強化に取り組みました。

- ①新メルマガ: 2type 創刊  
“JIA メルマガ”は会員向けに重要な情報を掲載。“JIA 通信”は会員及び関係団体、官公庁、プレスなどに向けて様々な情報を提供。
- ②(新)JIA Video letter 創刊  
動画による JIA からのメッセージや活動を 1 号/月で制作し、一般に公開。
- ③HPの改良  
トップページと全体内容を見直して改善。また、掲載基準を策定しスピーディーに的確な情報をUPできるようにした。
- ④機関紙「JIA magazine」の充実  
特集「パラダイムシフト」に取り組み、新国立競技場関連では社会に広く大きく波紋を投げかけることに成功。
- ⑤JIA 内部の情報ネットワーク構築  
各支部広報委員長 WEB 会議を隔月開催し、主要委員会には広報担当者を配置するなど、情報の収集、受発信を可能に。
- ⑥(新)JIA リーフレット  
新たな JIA 紹介リーフレットを企画し制作。

## 7)教育・表彰委員会

新委員会は、教育プログラムおよび表彰プログラムの双方に関する活動を担当しています。委員会の中に、各スクール・セミナー活動を担当する「教育分科会」、各賞については「表彰分科会」を設置し、下記の活動を実施しました。また、今後の表彰制度のあり方等についての研究にも着手しています。

### 教育分科会

- ①JIAオープンデスク  
登録事務所数 207、内受け入れ事務所 70、応募学生数 128 名、参加学生数 116 名
- ②大学院インターンシップ  
昨年度の議論を踏まえたうえで、受け入れ事務所側の理解を促進するよう制度の解説を考慮し、継続実施しました。
- ③リフレッシュセミナー

2014年3月2日から2泊3日で熱海のリフレッシュセンターでJIAの各支部からの参加者を集めて、セミナーを実施しました。またリフレッシュセミナー参加者がコアになって JIA 大会ごとに発表を行なう「リフレッシュセミナーREUNION」を北海道大会で実施しました。

### 表彰分科会

①日本建築大賞、日本建築家協会賞、JIA 新人賞、JIA25 年賞、環境建築賞の各賞について、公益社団法人への移行に伴い、各募集要項を見直しして実施しました。

日本建築大賞(1点)日本建築家協会賞(4点)JIA 新人賞(2点)JIA25 年賞(18点)環境建築賞住宅建築部門(最優秀賞1点・優秀賞2点・入賞2点)一般建築部門(最優秀賞1点・優秀賞2点・入賞3点)

②建築家のあかりコンペ WG

7 回目を迎えた「建築家のあかりコンペ 2013」(主催:JIA/大光電機)は「闇を魅せるあかり」をテーマに実施し、最優秀賞1点、優秀賞1点、DAIKO 賞1点、特別審査員賞1点、佳作3点の7点を選出しました。

### 8)フェロシップ委員会

新委員会として、会員間の交流促進、会員増強の推進、会員情報の管理(会員の入退会審査・会費の管理)を主要なミッションに活動を行いました。会員の入退会審査を行っているほか、会員の交流促進については、フレッシュマンセミナーの実施に向けて検討し、今後の企画に向けて、試行として2月に九州支部のセミナーに各支部から参加を募り参加し実施しました。会員増強については目標を設定し、広報委員会と連携して会員増強活動を実施しています。新会員制度の準会員の入会促進のための整備を行っており、会員資格等の細則の検討を行っています。

### 9)国際交流委員会

新委員会として、国際連携の推進とともに、国際貢献活動・国際事業の実施をミッションとして踏まえ、国際交流委員会の体制づくり、支部の国際活動の支援、支部助成費の考え方、会員種別英語名称についての検討等について考え方をまとめ、理事会で報告して、それに沿った活動を実施しました。個別案件としては、フィリピン台風対応、UIA2014 ダーバン大会、英文パンフ作成、海外名誉会員推薦等について検討・対応しました。

## 2. 再編調整中の委員会

### 1)災害対策委員会

2013年4月に淡路島地震が発生し、地元である近畿支部に状況調査を依頼、古民家損傷が確認され復旧支援を要請しました。近年は、伊豆大島を代表に土砂崩壊をもつ豪雨被害も多く発生、冬季豪雪被害も非豪雪地帯で多く発生し被害を生じたため、従来 JIA は大規模地震に限って対応してきたが、今後は豪雨豪雪、竜巻を含め災害対策活動の対象に含めることにしました。ARCASIA の活動にも積極的に参加して、災害支援情報を交換し、国

内でも災害対策関連諸団体と協力を進めました(委員会再編にともない全国会議の活動に移行調整中)。

## 2) 環境行動ラボ委員会

2013年度も順調に予定の事業活動を実施しました。調査研究事業では環境データシートの研究を継続し、伝統的工法木造住宅の技術文化の継承のための調査研究を行いました。教育事業では環境技術と木材利用推進をテーマにセミナーを3回開催しました。出版事業は環境省エコハウスを総括する書籍を出版し、継続サポートのためポータルサイトを開設しました。さらに、本部・支部と連携して本部表彰委員会の環境建築賞公開審査会の開催に協力し、近畿、四国、九州支部でセミナーを開催しました。会員連携情報発信を目的にホームページを開設し本部ホームページとリンクしました(委員会再編にともない全国会議の活動に移行調整中)。

## 3. 必要時に立ち上げる委員会

### 1) 選挙管理委員会

2013年11月1日開催の第1回選挙管理委員会にて、役員選挙基準等の内容確認や選挙日程等を決定しました。12月20日の立候補締切日まで理事・監事双方とも、立候補者数と定員が同数であったため、投票は実施しませんでした。前述の「V 本部役員選挙」で記述した結果を2014年1月15日発刊の「JIA MAGAZINE 300号」に掲載して全会員に告知しました。

### 2) 職責委員会

行政による懲戒処分を受けた会員について、会長からの付託を受けて審議を行い、審議の結果を報告書としてまとめ、理事会に報告しました。

### 3) 懲戒審査委員会

理事会の付託を受けて、行政による懲戒処分を受けた会員の懲戒につき審議を行い、理事会に報告し、理事会承認を受けました。

### 4) 名誉会員選考委員会

2013年度通常総会に推挙する名誉会員について、支部推薦3名、海外推薦4名、会長推薦1名の選考審査を行い、理事会に答申しました。

## 4. 委員会再編により新委員会へ移行した委員会(2013年度で旧委員会活動は停止)

### 1) 総務委員会

入退会審査、新会員制度に伴う手続き等、事務局改革・規程類の整備、会員・会計システム管理・会員増強及び新会員対応等について検討を行いました(委員会再編にともない財務・事業管理委員会、新総務委員会及びフェロシップ委員会に移行)。

### 2) 国際委員会

JIA 北海道大会、AIA 大会、UIA、ARCASIA 等における国際交流活動を行ったほか、会

員種別英語名称、英文パンフ作成、今後の国際委員会の運営について検討を行いました(委員会再編にともない国際交流委員会に移行)。

### 3) 法制度委員会

「建築・まちづくり宣言」(2011年9月20日)の具体的な内容を建築学会の南一誠座長の主導のもとに建築関連5団体が「共同パンフ」に取りまとめました。委員会再編のために活動は停止状態となりましたが、「建築基本法(仮称)」の制定に関する活動は、今後さらに積極的に展開する予定としており、関係他団体、専門家との連携体制と、新委員会再編にともなうJIA内での組織づくりを検討中です。

### 4) 都市づくり街づくり委員会

「景観まちづくり協議会」への参加を通じて、地域のまちづくりの担い手に対する支援を行うとともに、数年にわたり続けている建設コンサルタンツ協会との協働プログラム「誰が景観を創るのか？」の第6回シンポを開催し、このシンポを受けて両協会の会長の対談を実施しました。さらに宮城地域会に対して復興まちづくりのための調査や住民ヒアリング等の支援を行いました(委員会再編にともない関東甲信越支部所属の委員会に移行)。

### 5) 会員増強・新会員対応特別委員会

会員増強について各支部の目標を定め、増強活動を推進しました。また、退会者の縮減のための交流活動の活発化の推進、準会員の入会取組、新入会員のためのフレッシュマンセミナー企画・立案、入会勧誘用資料の充実等の検討を行いました(委員会再編にともないフェロウシップ委員会に移行)。

## 5. その他部会・ワーキンググループ等

### 1) 文化財ドクター事業対応会議

2011年東日本大震災により被災した文化財建造物の復旧支援するため、文化庁が日本建築学会、日本建築家協会、日本建築士会連合会等に呼びかけ、3年に亘って実施したものです。2013年度はJIAが本部内に全国縦断的な組織を立ち上げ、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団からの補助を受けて、事業全体の事務局を担当しました(委員会再編にともない、全国会議の活動に移行予定)。

### 2) 建築相談連絡会議

2013度は、2回の連絡会議と幹事会を開催しました。JIA北海道大会に向けて、相談室の実績・運営について全国アンケートを実施し、同大会で「JIA 全国建築相談室会議」とパネル展示を開催しました(委員会再編にともない全国会議の活動に移行予定)。

### 3) 全国卒業設計コンクール実行委員会

2013年6月29日と30日の2日間東京・新宿アクアプラザにて第10回全国卒業設計コンクールを開催しました。全国から約600作品から選抜された優秀作品52点を展示、審査し金賞1作品、銀賞1作品、銅賞1作品、審査委員特別賞5作品を決定し、北海道大会でも賞作品のパネル展示を開催しました。

#### 4) 建築アーカイヴス会議

金沢工業大学と協力して、貴重な設計図書等の設計文化財のアーカイヴス化の事業をさらに進め、JIA 北海道大会で建築アーカイヴスワークショップを開催しました。設計文化財の活用、利用の具体的な活動を担当する NPO 法人の立ち上げを計画中です。

#### 5) 再生部会

「既存建築物を使い続けていくための諸制度の見直し」について、東京弁護士会の歴史的建造物部会と協力し、実現に向けて共同研究を行いました。JIA 北海道大会では「未来に残したい 20 世紀の建築」をタイトルにシンポジウムを開催しました(委員会再編にともない関東甲信越支部所属の部会の活動に移行)。

## VI 支部活動

### 1. 北海道支部(上遠野克支部長)

北海道支部では、支部・地域会が公益活動の中心となる体制づくりにあわせて、災害対策委員会、環境委員会、保存再生委員会、まちづくり委員会、建築相談連絡委員会を立ち上げました。

2013年度の具体的事業としては、JIA 全国大会を17年ぶりに札幌の中心部を会場に、8/31から9/8まで開催しました。「拓く」をテーマに基調講演、シンポジウム、展示、ワークショップ等、教育文化会館、チカホを利用して広く市民に開かれた大会としました。参加した全国の会員、市民からも北海道らしい清々しい大会になったとの評価を受けました。

その他、支部事業である、第5回 JIA・テスクチャレンジ設計コンペ等のコンペティション、道内工業高校生を対象とした「北のジュニアオープンデスク」、住宅賞レビュー、支部卒業設計コンクール等を開催しました。旭川では9回の Asahikawa school を開催し、地域での活動の中心となっています。また、道東では「集合！くしろ建築設計団」を開催し、市内の幼稚園児も参加し市民参加の事業となりました。また、一級建築士の資格を持つ弁護士の方を講師に迎え、第1回目の「建築家のためのコンプライアンス入門」セミナーを開催しました。

### 2. 東北支部(渡邊宏支部長)

東北支部では、前年度に続き地域に貢献する建築家団体として「継承」「変革」「協働」を柱に JIA の特徴を生かした事業を行いました。

公共建築設計懇談会、北三県合同フォーラム、東北建築学生賞、東北住宅大賞、デザインウィーク in せんだい、地域と専門家の開かれたプラットフォームを実現した「みやぎボイス」など特色ある事業を展開しました。多様な復興支援活動を継続中で、2014年には福島で原発と復興をテーマに支部大会を開催します。

10月には事務局を仙台市中心部に移転し、発信力と機動力のある活動環境と市民への利便性向上を図りました。会員の多彩な活動から若い会員の入会と地域会活動が充実、本部・支部・地域会が連動した公益活動を実行中です。これからも地域と専門家との協働を進め社会の期待に応えていきます。

### 3. 関東甲信越支部(上浪寛支部長)

2013年度を振り返ると、公益社団法人としての覚悟を新たにするとともに、社会からの期待を自覚する1年でした。特に2020年東京オリンピック・パラリンピック大会開催が決まり、新国立競技場を初めとする大会関連施設に関する要望、提案、記者会見などを行いました。2020年を契機に東京の街、日本の街が美しく愛着のあるものになるよう、継続的に専門家団体としての発信を行っていく考えです。

法人移行に伴う組織再編により本部委員会の再編が行われ、支部でも再編に取り掛かりました。地域会が定款に定められたことを受けて、23 地域会代表による連携と意見交換の場である地域サミットを支部規約に位置づけ、役割をより明確にしました。また、災害対策、環境、国際事業など、今まで支部になかった委員会を立ち上げ、より多くの会員による公益活動を活性化させる考えです。

#### 4. 東海支部(鳥居久保支部長)

東海支部では、2013 年度、他支部との連携により、UIA 世界大会での日本予選である JIA ゴールデンキューブ賞の運営を担い、11 月からの作品募集と、1 月の公開審査を行いました。

また新たな事業として「東海住宅建築賞」がスタートし、会員以外も含めて 47 件の応募があり、東海地方の住宅文化の顕在化を通して、新たな建築家の発掘を果たしました。

その他の支部事業としては第 20 回「東海学生卒業設計コンクール」、第 30 回「支部設計競技」の運営を行いました。また、支部の機関誌である毎月発行の「ARCHITECT」は、支部、地域会活動周知のための情報誌と、職能意識の共有のためのツールとなっています。

加えて、資格制度・広報・会報・CPD など本部への委員派遣、フレッシュマンセミナーへの試行的参加、リフレッシュセミナーへの参加、会員増強などの活動を行ない、今後は支部間を渡る連携活動を不可欠なものとして、活動を重ねていきます。

#### 5. 北陸支部(近江美郎支部長)

北陸支部では 2013 年度下記の事業を実施しました。

##### 1) 中国建築交流

中国の建築団体と北陸支部会員との交流については、北陸支部会員が中国は大連を訪問し「大連市室内装飾設計協会」と友好協定を締結しました。

##### 2) 卒業設計コンクール北陸支部審査会

北陸 3 県から 6 名の応募があり、会員審査員 3 名による公開審査会を行いました(富山大学 2 名、金沢工業大学 2 名、福井大学 1 名、福井工業大学 1 名)。

##### 3) 大会記念講演、セミナー

大会記念講演においては建築家陶器浩一氏を講師に招き、2012 年度 JIA 日本建築大賞受賞の「竹の会所」に関する講演会を開催しました。その他 JIA 芦原会長と若手会員との対話セミナー、「金沢弁護士会館」プロポーザル振り返りセミナー、富山県「勝興寺」修復に関するセミナーを開催しました。

#### 6. 近畿支部(小島孜支部長)

近畿支部では、従来からの継続的事業に加え、2013 年度は特筆すべき 2 つの新事業を展開しました。

1つは韓国釜山建築家会との国際交流事業に、中国天津市建築学会を加えた三国交流の開

始です。釜山では日韓共催の「建築大展・国際コンペ」を実施、天津では「創意産業博覧会」に出展、日本では「日韓中・若手建築家ワークショップ」を開催しました。

もう1つは11月25日から12月8日までの2週間にわり開催した「近畿支部大会・大阪」です。「現在(イマ)と未来(ミライ)の地域ネットワーク」をテーマにしたメインイベントに、実現に向けた3つの「学生コンペ」、協力会員企業のショールーム等で22のイベントを連続開催した「おおさか・まち Archi(あるき)フェスタ」を加えた企画です。この大会を通して、JIAの公益的な活動を一般市民にもアピールできたと自負しています。

## 7. 中国支部(山田曉支部長)

中国支部では、今年度の主な事業内容として、「市民に向けての活動を行う」との宣言のもと5地域会と共に以下の事業を具体的に行いました。

- 1) 「第5回 JIA 中国建築大賞 2013」の実施
- 2) 山口県における「JIA中国支部建築家大会 IN 防府2013」の実施
- 3) 各種地域会活動の充実支援
- 4) 開かれた広報活動-市民・会員に向けて
- 5) 中国支部災害対策委員会の充実
- 6) 「環境×建築連続セミナー」四国支部との共催
- 7) 広島県「魅力ある建築物創造事業」への連携

支部としては、それらの事業を通して、地方に在住する建築家として、地方ならではの建築文化の創造を担い、また、我々の住む地域に役立つ貢献が出来るように日々の活動を行ってきました。さらに、新しく出来た「準会員制度」の整備を図り、組織の見直し・充実に向けてのスタートを切ることができました。

## 8. 四国支部(細木茂支部長)

四国支部では、はじめての第1回支部大会を4月13日に愛媛で開催しました。会場は第1回を記念して松山市の老舗「道後温泉ふなや」で行いました。午前中に支部総会と支部協力会員の会発足式を行い、午後は式典、基調講演のあと4つの分科会のセミナーを行い、夜にレセプションを開催しました。参加者は107人に盛り盛んな支部大会となりました。

その他に二つの事業を行いました。その一つは中国支部と共同開催の「建築×環境連続セミナー」です。この事業は2ヵ年度の継続で、今年度は基礎編とし、1回に2人の講師を招き年間6回の開催で、受講者はJIA会員以外からも募集しました。64名の参加があり、大変盛況なセミナーとなりました。

もう一つは「建築巡礼四国 88ヵ所ガイドブック vol.2」の出版事業です。1998年にvol.1を出版していましたが、15年ぶりに第2版を出版することになりました。2010年より3年半かけて準備し、3月末に出版に漕ぎ着けました。



## 9. 九州支部(水野宏支部長)

九州支部では、公益社団法人へ移行してはじめての年として、継続的な公益活動が続けることを確認しました。

九州支部の継続的公益事業として「学生デザインレビュー」を本年度も実施し、多くの応募を集め、審査を通過した100人ほどの学生が秀作を持ち寄り、熱い議論がなされました。

また、建築家協会会員として振舞い方を再確認する目的と新入会の会員を如何にしてJIA会員としてなじませるかということから、フレッシュマンセミナーを開催しました。当初九州支部単独で開催する予定でしたが、フェローシップ委員会の共催により多くの支部より情熱的な新入会の会員が参加し、それぞれの建築観を背景に暑い議論がなされ、主催者側にとっても大きな刺激を受け、大変有意義でした。

その他には、佐賀地域会主催による地域交流会が吉村順三設計の大正屋で開催され、伝建の肥前浜宿見学などを行いました。

## 10. 沖縄支部(島田潤支部長)

沖縄支部では、海外交流活動として、一昨年のタイ・バンコクへの視察に続き、チェンマイへの視察旅行を行ないました。チェンマイ大学での東南アジアの民家の調査研究に関するレクチャーやタイ王立建築家協会の建築家の方々との交流会を持つ等、より実りある成果を挙げることができました。また、県のグローバル事業化の補助を受けて、タイとベトナムでの設計受注に向けての取り組みも始まりました。今後も海外交流の活発化を図ります。

12月には、県主催による若い設計者を対象とした設計コンペ「(U-40設計競技)ナングスクコンペ」の公開審査に協力しました。これからも、若手建築家の登竜門として定着するように支部としても引き続き支援していきます。3月には、自然豊かな山原の地で「風景をつくる」のテーマで会員の建築展と、山下保博氏を審査委員長に迎えた卒業設計作品選奨の公開審査を開催しました。また、同氏には「地域素材から街づくりへ」と題して講演をしていただき、多くの市民に参加をいただきました。